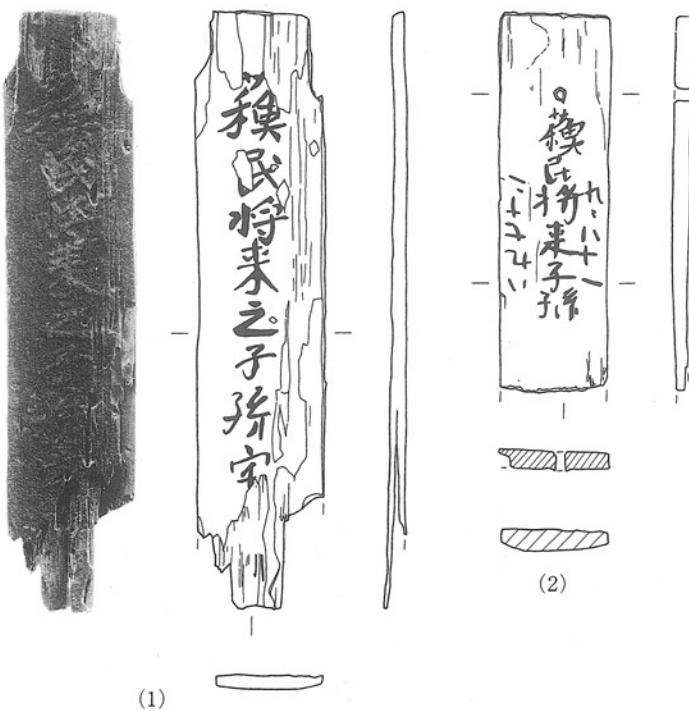


(財)大阪府文化財センター「玉櫛遺跡Ⅱ」(財)大阪府文化財センター
調査報告書九五、二〇〇三年)

(駒井正明)



大阪・久宝寺遺跡

きゅうぼうじ

所在地 大阪府八尾市大字龜井ほか

2 調査期間 第二九次調査 一九九九年(平11)九月～二〇〇〇

○年一月

3 発掘機関 (財)八尾市文化財調査研究会

4 調査担当者 坪田真一

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

久宝寺遺跡は、古大和川の主流であった古長瀬川左岸の沖積地に立地する複合遺跡である。

東側には飛鳥時代創建の渋川廃寺が位置する。

調査地は遺跡南部にあたり、飛鳥時代から奈良時代



(大阪東南部)

までの主な遺構としては、西部で掘立柱建物・素掘り井戸、東部で丸太分割削抜き井戸・溝・自然河川があ

る。

木簡は東部の自然河川N.R三〇〇三から出土した。共伴遺物としては、八世紀後半の土師器、須恵器、屋瓦、曲物のほか、獸骨や礎石と考えられる石材が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) □三人之中上丁石津連乎黒万



(176)×(48)×4 181

三人の中の上丁（上番しているもの、出勤しているもの）の名が石津連乎黒万なのである。石津連は和泉国大鳥郡石津郷（大阪府堺市石津町一帯）の地名にもとづくと考えられる。ここから役所に出ている三名を呼びつけた召文、あるいは同三名に対し食料などを支給した伝票の可能性が考えられる。

なお釈読にあたっては、大阪市立大学の榮原永遠男氏と、奈良文化財研究所の渡辺見宏氏、山本崇氏、中村一郎氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)八尾市文化財調査研究会『久宝寺遺跡第一九次発掘調査報告書』（財)八尾市文化財調査研究会報告七四、二〇〇三年）

（坪田真一）

